

瘧 蚊が媒介する風土病

「瘧(おこり)」は奈良時代から知られていた感染症で、現在のマラリアのことです。別名わらはやみ、えやみとも呼ばれました。沼地に生息するハマダラカという蚊が吸血する際にマラリア原虫を人体に感染させて起こる病気で、江戸時代までは、悪寒がひどく、発熱が連日続いて体力を消耗する型が流行しました。



平清盛が熱病で苦しむ姿

『源平盛衰記図会』では、熱病にかかった折に、清盛の体が炎のように熱くなったため、あまりの熱さに体を冷やそうとした水が熱湯となったという話が記されている。清盛のこの病気は、瘧ではないかといわれている。

【寛政12年(1800)】